

# アクティブ サポート 京都

Active Support Kyoto

京都産業21のビジネス情報誌

02

Feb. 2005. No.017

<http://www.ki21.jp>

## CONTENTS

財団理事へのインタビュー“みやこの風”	1 ▶ 2
京都ビジネス交流フェア2005	3 ▶ 5
新春賀詞交歓会	6
新京都ブランドレポート⑥	7 ▶ 8
第二創業・経営革新セミナー	9 ▶ 10
産学公連携 大学リエゾンオフィス紹介	11
人づくり塾	12
受発注コーナー	13
遊休機械設備コーナー	14
行事予定表	15

**京都ビジネスパートナー交流会2005**

～2005年2月8日(火)-9日(水)～

国立京都国際会館

がんばる企業を支援します。

財団法人 **京都産業21**

Kyoto Industrial Support Organization 21

# 財団理事へのトップインタビュー ～「みやこの風」～

今回、ご登場いただくのは、総合電子部品メーカー株式会社村田製作所代表取締役社長であり、当財団副理事長である、村田泰隆氏。

株式会社村田製作所は、世界を舞台に躍進する総合電子部品メーカーとして、世界のエレクトロニクス産業をリードしつづけている企業です。昨年、創業60周年を迎えるとともに、長岡京市にツインタワーの新社屋を竣工し、更なる飛躍が期待されている株式会社村田製作所代表取締役社長の村田泰隆氏にお話をお伺いしました。

(担当:企画広報グループ)

## 統合後3年経過した財団の評価

—平成13年4月に3団体が統合し、財団法人京都産業21として新しくスタートしました。この間の財団をどのように見ておられますか。



村田●京都府知事から、法に基づく「中核的支援機関」としての認定や「中小企業支援センター」の指定を受け、中小企業の経営革新、新産業育成、創業促進などの各種支援事業を展開し、更なる強化に努めているところですが、3団体の統合効果は着実にあらわれてきていると見ています。

—昨年、誰のために仕事をするのか、を常に考え、顧客第一の視点に立った、当

財団の「基本理念」を策定するとともに、昨年は財団の「中期計画」を策定し、新たな第一歩を踏み出しましたが、今後とも、役員一人ひとりが高い目的意識を持ちながら、人的情報や情報ネットワークの強化を構築しつつ、質の高いサービスの創造と提供を心掛けていきたいと考えております。

## 創業から今日に至るまでを振り返って

—貴社は、昨年、創業60周年を迎えられるとともに、新社屋を竣工されるなど、大きな節目となる年を迎えられました。この間の歩みをどのように見ておられますか。

村田●創業当時の名もない町工場から、今日のような規模のメーカーに発展できたことは感慨に耐えません。

これは、株主の皆様をはじめお得意先、サプライヤー、行政の

方々のご指導、ご支援の賜ものであり、創業以来、材料開発から製品、生産機械、工法開発までの一貫した研究開発と生産体制を敷くことにより、「独自技術」「独自製品」を創出してきた成果と考えています。

今後、材料、高周波、回路設計技術ならびにプロセス技術など基軸となる技術に加え、「ナノメートルからテラヘルツまで」をキーワードにナノレベルの微細加工技術、テラヘルツ、光の領域も視野に入れ、研究開発と事業の拡大に取り組んでいきます。

## 企業理念とそのねらい

—企業理念について、お聞かせいただけますか。

村田●当社は、「新しい電子機器は新しい電子部品から、新しい電子部品は新しい材料から」を基本理念としています。

創業当時は、材料の大半を外部から購入していました。このため、同じ成分のほうのもので、購入時期が違えば、品質にバラツキがあり、お客様に納品できないといったことも起りました。

これを教訓とし、社内の品質管理のもと、材料を調合し、製造しなければならぬと考え、創業間もない昭和31年に、長岡京市に村田技術研究所を開設し、当時の企業規模では「会社をつぶす」と言われるほどの体制を整えました。さらに、昭和37年、滋賀県八日市市に大規模な原材料工場を開設しました。また、製造の自動化も重要と認識し、社内での開発を積極的に進めました。これらにより、材料、工法の様々なノウハウを獲得し、独自の製品を効率的に作る体制を整えました。

現在でも、材料開発、工法・プロセス技術、商品開発を主要な柱として研究開発費を投資し、そのいずれの分野においても業



界の最先端を目指しています。

材料から製品に至る一貫生産体制によって、各工程で付加価値が生まれます。ここにノウハウとコストの面で国際競争に勝ち残る要素があると考えています。

## 技術革新への対応と産学連携の取り組みについて

—技術開発の取り組みについては、終戦直後、当時の京都大学田中助教授との出会いが大きかったとお聞きしておりますが、技術開発、産学連携の取り組みについて、お聞かせ下さい。

村田●当社の成長について、京都大学との産学協同活動を抜きには語れません。田中先生の研究テーマである「チタン酸バリウム」の解析により、主力製品となるチタン酸バリウム磁器コンデンサが生まれ、そ



の後、チタン酸バリウムの誘電性、圧電性、半導性などの特性を利用した製品を開発できたことが当社の発展につながりました。

現在も、当社の目指す開発領域と合致する大学、ATR、研究室との共同研究、社員派遣等を積極的に行っています。

京都は、我が国を代表する産学連携による、研究開発、新事業創出の最高の舞台と言えます。(財)京都産業21としても、1社でも多くの、大いなる可能性を持つ京都の中小企業の皆さんに対して、産学連携の架け橋の役目を果たしていくことが大切であると考えています。

## ご自身について

—村田社長は、青春まっただ中の頃、渡米され、ニューヨーク大学で学ばれています。当時の思い、海外で学ばれたことでのどのような影響を受けられたか、お聞かせ下さい。

また、蝶をこよなく愛され、本も出されたとお聞きしていますが、そのあたりも含めて、人間「村田 泰隆」をお聞かせ下さい。

村田●海外留学で異なった社会、文化を経験できたことは、大いに役立っています。様々な国からの留学生がおり、彼らと一緒に行動したり、議論をする中で多様な歴史、文化、政治、宗教とそれに基づいた価値観があることと、それを理解する必要性があることを強く認識しました。日本人のものさしは、日本にいる限り変わりません。国際ビジネスで生きていくためには、いくつかのものさしを持っておくことが必要です。現在でもそれができるように、例えばひとつのテーマについて日本と海外の新聞を読み、その違いを認識するようにしています。

蝶への取組みは小学校3年生から。上級生の持っていた標本に見たことのない蝶があったり、自分で採集した蝶の美しさに惹かれたのがきっかけです。

採集、飼育・生態観察、写真撮影、発生・進化の研究と、切り口

を変えて深めることができます。ここ10年以上は写真撮影、さらには化石の研究に力を入れています。

## 京都の良さ、可能性(京都企業であることについて)

—貴社は京都に本社を置かれ、また、村田社長は京都を拠点に活躍されています。京都の良さ、また京都の可能性をどのように見ておられるか、京都への思いと併せてお聞かせ下さい。

村田●京都は、創業の地でありますが、特に京都にこだわっている理由はありませんし、逆に大阪や東京に本社を構えなければならぬというこだわりも持っていません。

京都にいてもITツールの発展で多くの情報は遜色なく入手できますし、マーケットの近くにおく必要のある機能は東京支社、横浜事業所がカバーしています。

また、当社の地域別の売上構成は、海外が65%となっており、本社所在地による影響は大きくありません。新本社竣工を機に、京都の利点を活かしつつ、ワールドワイドに展開したいと思っています。

京都の気風として、伝統産業を手がける中小企業が多いためか、自主独立の気風があると感じています。そして、伝統を守り続ける反面、新規のものにも寛容で、ベンチャーの企業にもあまり干渉せず暖かいところがあると思います。

また、京都は大学の数が多く、しかも東京のように巨大企業が集中していないので、一般になじみの薄い中堅企業であっても、優秀な人材を集め易いというメリットもあります。

伝統的、特徴的な技術と最先端の研究成果を融合することによって、大きく飛躍できる可能性をはらんでいる土地だと思います。

## 京都の起業家、中小企業経営者へのメッセージ

—京都の起業家や中小企業経営者、若手経営者の方々にメッセージをいただけますでしょうか。

村田●信条は「perceptive(鋭敏・洞察力)、persuasive(説得的)であれ」です。様々な文化や価値観の背景を理解しつつ、みずからの考えを築くことをモットーとしています。

従業員にも、幅広い視野を身につけ、異なる風土や文化、お互いに異なる物差しの存在を理解し、多視点からものを見ていく



力を持つことと、ひとりひとりの強み、得意分野を持つこと、そして決断にあたっては、情報の分析力を高め、自己判断力や思考力を深めることを求めています。

また、企業の成長発展にとってもコア・コンピタンスを確立し、それを高めることが不可欠であると考えています。

【お問い合わせ先】

(財)京都産業21 企画広報グループ

TEL:075-315-9234 FAX:075-314-4720  
E-mail:kikaku@ki21.jp

# 京都ビジネス交流フェア2005のご案内

産・学・公が集う! 京都最大規模のビジネスイベント

日時: 2005年2月8日(火)~9日(水) 10:00~17:00 (9日は16:30終了)

場所: 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)

主催: 京都府 財団法人京都産業21



## 開催イベント

京都ビジネスパートナー交流会2005 (会期中を通して開催)

●中小企業展示コーナー/産学公交流推進コーナー 10:00~17:00 (2日目は16:30終了) **イベントホール**

●技術アライアンスコーナー 11:00~16:00 **アネックスホール**

府内外のメーカー45社が参加し、独自技術の開発等、優秀な技術を持ち提案型営業を得意とする中小企業とのマッチングの場(面談形式)を提供。参加メーカー等詳細は別途ご案内します。

### 2005年2月8日(火)

- 京都ものづくりフォーラム2005 10:30~12:00 **Room A**
- 京都“ぎじゅつ”フォーラム 13:00~15:00 **Room D**
- 京都産業21環の会(KSR) 経済講演会 15:00~16:30 **Room B-1**

### 2005年2月9日(水)

- 情報化プラザ 11:00~12:00 **Room D**
- 2005国際化セミナー 13:00~16:00 **Room D**

## 出展企業一覧

### ●自動化機器・生産設備設計~製作

NKE(株)	室屋技研工業
旭光精工(株)	(株)メカテック
(有)シオガイ精機	(株)山岡製作所
秀峰自動機(株)	(株)山城技研工業
(株)本間工業	

### ●金型設計~製作

(株)山崎

### ●精密機械加工

(株)アライドレーザー	(株)草川精機
(株)オージーファイン	小西精工(株)
荻野精工(株)	佐々木機械(株)
(株)桶谷製作所	(有)三翔精工
河原鉄工(株)	(株)三昌製作所
(株)木村製作所	(株)山豊エンジニアリング

(株)清水製作所  
城陽富士工業(株)  
(株)積進  
大和技研工業(株)  
田中精工(株)  
(株)タムラ  
(株)タンゴ技研  
(株)DG工業  
中西機械(株)

西村鉄工(株)  
(株)日光電機製作所  
(株)日昌製作所  
(株)日進製作所  
(有)白道  
ヒロセ工業(株)  
(株)ミネヤマ精機  
(株)山口精機製作所

### ●精密板金・製缶加工

(株)アールエンジニアリング  
伊東板金工業(株)  
掛津アーム(有)  
(株)神村製作所  
(有)新和製作所  
(株)誠工社・エイジシステム(株)

(株)セイワ工業  
(株)大栄製作所  
(株)田中鍍金  
(有)ビックバン  
(株)山口製作所  
(株)山ノ内製作所



25th  
NexTose

地球のココロおどらせよう

ゲームソフトから

モバイルコンテンツまで

多彩なデジタルエンターテインメントを

創造し、広く社会に貢献します。

株式会社 トーセ

〒600-8091 京都市下京区東洞院通四条下ル  
TEL.075-342-2525 FAX.075-342-2524

事業内容...◎ゲームソフト企画・開発 ◎モバイル・インターネット関連コンテンツ企画・開発・運営

グループ会社...株式会社ティーネット/東星軟件(上海)有限公司/東星軟件(杭州)有限公司/Tose Software USA, Inc.

ホームページ <http://www.tose.co.jp/>

〈証券コード4728 東証・大証一部上場〉

●鍛造・鋳造	
(株)大宮日進	
●表面処理	
(株)旭プレジジョン 上田鍍金(株) (株)キョークロ 協業組合 丹後熱処理センター	(株)京都ボーセ (株)栗田製作所 (株)ピースパッタ プラスコート(株)
●特殊加工	
エヌシー産業(株) オグラ宝石精機工業(株)関西営業所 共栄工業(株)	(有)平山製作所 (株)ムラカミ
●成型・樹脂機械加工	
(株)セネック 東海電工(株)	プロニクス(株) (株)ヤスタモデル
●電気・電子機器	
栄進電機(株) (有)キーアシスト (株)キョーバル 共進電機(株) 京都電子工業(株) クロイ電機(株) サンエー電機(株) シライ電子工業(株)	(株)信栄テクノス (株)テラシマ精機 (株)西嶋製作所 日本電気化学(株) 藤田電子製作所 マイクロテスト(株) 牧電子工業(株) コムックス(株)
●木材工芸・木型	
(有)廣部機型製作所	宮坂家具工芸(株)
●情報技術・ソフト	
インフォテック(株) (株)エーディーディー (株)カワフプロ	ショウワドウ・イープレス(株)・エスイーエフ(株) (株)ハイパーテック (株)フオン
●自社開発製品	
(株)イーフェイス 栄立電機(株) (株)旺辰電工 (株)健康科学研究会 (有)シバシステムサービス 相楽工業(株) タカス技研 (有)豊工房ヨシオカ (株)玉山工業 (株)ティーズ・コーポレーション	帝新商事(株) (株)東洋レーベル (株)仲西工務店 中沼アートスクリーン(株) 西田製函(株) ニューリー(株) (株)松菱製作所 美濃商事(株) (株)山科電機製作所
●試作	
京都試作ネット (株)クロスエフェクト (有)杉浦商店	(株)長濱製作所 (有)永政

●その他	
(有)エフ・ディー・サン (株)大槻シール印刷 基幹舎 小林金属興業(株)	(株)三紅 (株)タイセイ (株)西山ケミックス
●グループ・団体	
MCTP 京都機械金属中小企業青年連絡会 京都府電子機器工業会	京都府鍍金工業組合 久御山町受注グループ協会 丹後機械工業協同組合(協)
●京都商工会議所ビジネスモデル認定企業	
Aminerr (有)エイチ・アイ・テクノス (株)エクザム SOBAプロジェクト (株)エニワイヤ 彼方此方屋 京都商工会議所 中小企業経営相談センター 京都府 京都・ビジネスモデル推進センター 京仏具(株)小堀 (株)さんけい 三幸総研(株) (株)ノフィア・クレイドル (株)太鼓センター	(株)データ変換研究所 デジタルレポリューション(有) (株)ドリコム (株)ネットイン京都 パシオ(有) バピーコス (株)フェムト (有)ベンギンファクトリー (有)マイクロシルク (株)MyBS (株)モフミー ランゲート(株)
●産学交流推進	
大阪電気通信大学 関西学院大学 関西大学 関西ティー・エル・オー(株) 京都銀行 京都工芸繊維大学 京都産業大学 京都信用金庫 (学)京都精華大学 京都造形芸術大学 京都大学 京都橘大学	京都中央信用金庫 京都府立医科大学 京都府立大学 京都文教大学 国立大学法人 滋賀大学 (財)大学コンソーシアム京都 同志社大学 (株)南都銀行 佛教大学 立命館大学 龍谷大学
●支援機関	
京都府織物・機械金属振興センター 京都府中小企業総合センター (社)中小企業診断協会京都支部	(協)京都中小企業診断士会 フューチャーベンチャーキャピタル(株) (財)京都産業21

**京都ビジネスパートナーガイドブック無料進呈**

京都ビジネスパートナー交流会出展企業などの情報を満載したガイドブックを無料進呈いたします。ご希望の方は、下記お問い合わせ先までお申し込みください。

※詳しい内容については**ホームページ** (<http://www.ki21.jp/bp2005/>) でもご覧いただけます。

**【お問い合わせ先】** (財)京都産業21 産業振興部 マーケティング支援グループ  
TEL:075-315-8590 FAX:075-315-9240  
E-mail:ki21@ki21.jp



# samco

Advanced Thin Film Technology  
Sharpening the Cutting Edge™

## サムコは創造性豊かな製品を 世界に送りだしています

- CVD装置
- ドライエッチング装置
- ドライ洗浄装置



薄膜と表面技術  
<http://www.samco.co.jp>

### サムコ 株式会社

2004年12月1日より  
(株)サムコインターナショナル研究所から社名変更しました。

本社 〒612-8443 京都市伏見区竹田薬屋町36 TEL(075)621-7841 FAX(075)621-0936  
営業所 東京・東海・つくば・仙台・福岡・上海・台湾・シンガポール・カリフォルニア

# 平成16年度京都中小企業技術大賞が決まりました!

受賞の技術・製品を展示いたします。

今年度も、合計7社の中小企業の技術・製品が技術大賞および優秀技術賞に選ばれました。「京都ビジネスパートナー交流フェア」の開催に併せて表彰式を行なうと同時に、受賞された優秀な技術・製品を広く紹介するため、フェア会期中にイベントホールで開催する「京都ビジネスパートナー交流会」で展示・紹介しています。ご来場の節は是非とも『技術顕彰コーナー』ブースにお立ち寄りください。

## 平成16年度京都中小企業技術大賞等受賞技術・製品の紹介

### ◆ 京都中小企業技術大賞

株式会社エナミ精機 京都府舞鶴市 代表取締役 江波 俊明

#### 『多品種混流生産／瞬時切替プレスラインの開発』

従来の板金プレス加工での製品機種替えにおいては、金型交換に要するロスタイムや後工程での溶接、塗装ライン用の広い工場を確保する必要があった。このプレスラインは、金型を自動拡縮、瞬時切替する今までにない画期的技術を用いるため、製品全機種の金型交換やライン停止が不要となった。使用する材料も塗装済鋼板を用いるので、スポット溶接に替わるカシメ工法で函体を完成させることができる。金型交換不要でロスタイムを解消するとともに、溶接や塗装ラインの場所が不要となり、大幅な省スペース化を実現した。

### ◆ 京都中小企業優秀技術賞

株式会社片岡製作所 京都市南区 代表取締役社長 片岡 宏二

#### 『ハイブリッド LDYAGレーザ装置 KLY-HP300β』

パルス発振型YAGレーザ装置の励起源に同型半導体レーザ(LD)を使用し、更にアルミニウム材において吸収率の高いLD光(808nm)をYAGレーザ光(1064nm)に重畳させることにより、アルミニウム材の接合効率を10倍以上高めることが可能な「ハイブリッドLDYAGレーザ装置」を世界で初めて開発した。これにより、アルミニウム材において高吸収率を有するLD光の重畳効果や4倍以上の高輝度化が実現でき、KLY-HP300βでは、従来のYAGレーザ装置よりも消費電力を約90%削減することが可能となった。

株式会社ソフィア・クレイドル 京都市左京区 代表取締役社長 杉山 和徳

#### 『携帯ソフト圧縮ツール“Sophia Compress”』

全ての携帯電話で用いられるJava並びにBREW上で動作するアプリケーションを圧縮するツールである。携帯電話は多機能化が求められていることに反し、搭載ソフトにはファイルサイズ制約がある。ソフトウェアの肥大化とメモリー制限という相反するものを両立させるために、どの機種においても動作保証がなされるソフトウェアの圧縮技術が必要である。当ソフトはBREWアプリの圧縮ツールとしては唯一のもので、平均20～50%程度の圧縮率を持ち、逆コンパイルしても元に戻らないことから、ソースの秘匿性を保持できる利点がある。

株式会社マエダ・スーパー・テクノ 京都府宇治市 代表取締役 前田 剛一

#### 『大豆粉末加工 及び 粉末大豆』

従来の微粉砕加工技術においては、繊維質、高分子構造、脂質、糖質を多く含むものは微粉砕が困難であったが、脱皮した大豆を約0.5秒で微粉砕し、平均粒径が20μm程度の粉末大豆を製造することに成功した。極めて短時間の微粉砕により発熱しないため、油脂の酸化等による劣化が起こらない。これにより、おからの発生しない豆腐や豆乳風味の大豆飲料の製造・販売に成功するとともに、豆腐製造時に発生する年間約80万tのおからについて課題であった処理コストや環境影響面での問題が、この粉末大豆を用いることにより解消された。

京都電子工業株式会社 京都市南区 代表取締役 植田 陽一

#### 『カールフィッシャー水分計、電位差自動滴定装置』

カールフィッシャー水分計は、各種の加工品・製品や天然原料に含まれる水の定量に用いられる。電位差自動滴定装置は、酸塩基滴定、酸化還元滴定などの電位差滴定を自動的に行う装置である。カールフィッシャー水分測定と純度分析等に必要な電位差滴定は、ともに、医薬品・食品・化学・石油業界等多くの企業で材料や製品の分析に使用されており、従来はそれぞれの専用機で対応していたが、一台の制御部でそれぞれの分析部を制御し、同時に測定することが可能な複合機を開発した。水分計と電位差滴定装置の複合機は世界唯一である。

株式会社大日本精機 京都府長岡京市 代表取締役 杉原 正芳

#### 『自動溶出試験機』

従来、「日本薬局方」「日本薬局方外医薬品規格」に記載された医薬品の溶出試験は、薬効成分の溶出から成分定量まで手動又は一部自動で行われていたが、当社では、医薬品中の薬効成分の溶出から溶出成分の分析、試験結果作成までの全工程を自動化する装置の開発に成功し、1度の準備で連続10回の繰返し試験が無人でできるようになった。また、ベッセルの加工寸法精度の向上や自動処理等により、試験結果の再現性が向上しただけでなく、試験結果のパソコンによるデータ処理・自動出力等により、人の労力を要する煩雑な操作が省け、データ解析も含めて大幅な省力化が可能となった。

株式会社ミツワ製作所 相楽郡山城町 代表取締役 原田 光夫

#### 『MITSUWAリサイクラー(プラスチックフィルム再生機)』

インフレーション式のプラスチックフィルム製造時に出る耳ロスのフィルムを非加熱(フィルムの自己発熱)でペレット化し、バージン原料として再利用できる装置を開発した。本開発は比較的低温の自己発熱で圧着する方式で樹脂劣化がなく、再生混合比率を25%にしても、リサイクル時の品質は100%バージン原料で製造したプラスチックフィルムとほとんど同等である。本装置の導入により耳ロスの全量をリサイクルできるので、プラスチックフィルムの製造コストを5～10%下げることが可能であり、廃棄物の減量にも貢献できる。

【お問い合わせ先】

(財)京都産業21 新事業支援部  
産学公連携推進課

TEL:075-315-9425 FAX:075-323-5211  
E-mail:gijutu@ki21.jp

# 新春賀詞交歓会

今年は乙酉<sup>きのとり</sup>の年。困難や抵抗にぶつかりながらも大きく飛躍し、新たな展開が期待できる年となる。

平成17年1月14日(金)、財団法人京都産業21・京都府異業種交流会連絡会議の主催で、「新春賀詞交歓会」が京都ブライトンホテルにて開催されました。

交歓会は、京都造形芸術大学の学生グループ・和太鼓『<sup>しん</sup>憲』の迫力ある演奏で幕を開けました。

京都産業21・立石理事長の「今年は乙酉の年で、抵抗にぶつかりながらも新たに伸びていく成長ある一年になる。昨年より見え始めた業績回復の兆しを一過性のものに終わらすことなく、しっかりと布石を打っていく年にしたい」との力強い新年の挨拶のあと、京都府・麻生副知事からは「異業種交流は古くて新しい言葉。縦・横の交流を深め、その結び付きを基盤とした京都の活性化を目指していただきたい。また、ハイテク企業の集積地として、京都府南部地域の活性化を一段と進める動きが本格化してくる。資金面、技術面の支援体制を充実させ、新しい産業創造に努めていきたい」と挨拶がありました。

また、京都市・中野産業観光局長の挨拶では「新たに建設されるパイオの研究所を中心として、医学と工学の連携分野の躍進が期待できる年となる。生命科学やナノテクノロジーの推進のため、京都府と京都市が協力して支援体制を構築し、京都の経済、事業活動に元気を与える年にしたい」と京都の新しい動きに期待を寄せる挨拶がありました。



人材派遣はパソナ。

- 人材派遣/請負
- 新卒派遣
- 人材紹介
- 再就職支援

ホームページ [www.pasona-kyoto.co.jp/](http://www.pasona-kyoto.co.jp/)

株式会社パソナ京都

京都本社 TEL.075-241-4447

京都市下京区四條通堺町東北角四條KMビル4階

滋賀支店 TEL.077-565-7737

草津市大路1-15-5ネオオフィス草津

# 基本に学び、事例に学び、生産革新をめざす

## レポート⑥ 京都マネジメント研究会

京都マネジメント研究会は、11社の会員企業が「生産革新」「経営革新」をめざし、実践的な研究を行っている異業種交流グループ。20年近くの歴史を持ち、人同士の交流、企業活動上の交流をふくめ、深くじっくりと研究活動を続けてきました。

久保氏を講師とした研究会では、毎回具体的で基本に忠実な生産革新(NPS)のプロセスを学んでいます。

そうした活動の一日を拝見し、事務局で研究会会長の立入勘一氏(株)長濱製作所 代表取締役)にお話を伺いました。



会長 立入 勘一 氏

株式会社長濱製作所 代表取締役  
京都市南区唐橋門脇町4の5  
TEL:075(691)5819  
FAX:075(681)7109

京都マネジメント研究会は、「経営構造改革と事業構造改革」を実践的に学ぶ場として、「勝ち企業」になることを具体的な目標として活動を続けている研究会です。

創設は20年ほど前に遡ります。

当時、京都産業21の前身組織が「下請けの自立化を促すための、ものづくり生産革新セミナー」を1年のスパンで開催していました。セミナーでは、理論的な企業運営の考え方、具体的な事例などを学び、個人的にも学ぶことの多いセミナーだったと感じています。

ただ、研究期間が終わったとき、さらに具体的で実践的な勉強会を持ちたいという希望が出て、セミナーに参加していた企業が何社か集まり、「京都マネジメント研究会」を発足させました。

当研究会の16年度の活動スローガンは「本気」「徹底」「トコトン」です。言葉のとおり、現状を見据え、真剣に経営革新に取り組もうとしている企業の集まりです。研究活動もかなり具体的で厳しいものですが、それだけに学ぶものは大きいと確信しています。

活動内容は大きくわけて二つ。「久保革新塾(事業革新研究会)」と「トップ交流会」です。

### ●「久保革新塾(事業革新研究会)」で実践的に学ぶ

これは、(株)メック推進センター・代表取締役の久保敬雄氏を講師に招き、年4回開いている事業革新研究活動です。

この研究会では、理論と実践を学びます。具体的には、モデル企業を1社選び、その企業の生産活動、管理体制、

組織風土体質などを検討していきます。

そして、可能性を秘めた部分、問題提起される部分を互いに見つけ出しながら、いかに改善していくかを探っていきます。こうした具体的なプロセスをふみながら、生産革新の4つの柱として、「経営ビジョン」「徹底した3S活動」「理にかなった生産システム」「理にかなった管理システム」が必要であることを徹底して研修していきます。

久保氏の持論は、「組織風土」を土台に、「理にかなった管理システム」と「理にかなった生産システム」が屋台骨として据えられ、その上に屋根となる「経営ビジョン」が構築されているのが「勝ち企業」となる企業体質である、というものです。

まず、自社の現状を細かく分析し、問題を発見することを研究会では時間をかけて行います。

そうした課題提起こそ、生産改善・革新に必要な不可欠なものであることをたたき込むのです。

### ●トップ交流会で互いの情報交換と刺激を受ける

トップ交流会は特定の日時を設定せず、タイムリーな話題がある時、あるいは他団体との交流を実施するときなどをその日に当てています。



トップ交流会風景

参加メンバーは、20年来の付き合いのある企業同士なので、忌憚のない意見交換が出来る場として活用されています。生産革新された先進企業の工場見学も関係者の支援により実施しています。

また、互いに自社内では気づけなかった可能性やアイデアなども、こうした交流会の話題のなかから発見することができるため、「久保革新塾」と相互作用的に具体的な経営革新に結びついています。